

第2学年 国語科学習指導案

日時 令和5年6月29日(木)第5校時
13:35～14:20
対象 第2学年2組 27名
授業者 中野 裕実
会場 2階 2年2組教室

研究主題

めあてに向かって主体的に学び、考える児童の育成
～キャリア教育を通して～

1 主題名

「しつもんをしあって、くわしく考えよう」〔光村図書2年上〕

2 教材名

「あったらいいな、こんなもの～しつもん名人になろう～」

3 ねらい

- 自分が考えたものについて順序を考えながら発表し、みんなに知らせたり、大事なことをもらさずに聞き、分からないことは質問したりすることで、聴く・伝える力を育成する。
- あったらいいなと思うものについて楽しく空想し、友達と質疑応答で考えが深まることを知る。

4 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・丁寧な言葉と普通の言葉との違いに気を付けて使っている。	・「話すこと・聞くこと」において、伝え合うために必要な事柄を選んでいいる。 ・「話すこと・聞くこと」において、話し手が知らせたいことや自分が聞きたいことを落とさないように集中して聞き、話の内容を捉えて感想をもっている。	・粘り強く話を集中して聞いて内容を捉え、学習課題に沿って質問や感想を述べようとしている。

5 主題設定の理由

(1) 教材について

本単元では、考えたものを相手に分かるように説明する方法を学習し、相手の説明を聞いて、感想や意見を言う活動を行う。相手に分かるように説明することや相手の伝えたいことについて詳しく聞くことは、生活の上で大切なことである。言語活動を楽しみながらも、しっかりと力を身に付けさせたい。

本単元では、自分が考えたものを友達に分かるように説明するという場面を設定している。話し手としては「丁寧な言い方と普通の言い方のどちらを使うとよいかを考えて話すこと」、聞き手としては「相手の考えを詳しく聞くために、大事なことは何かを考えて質問すること」が活動の中心となる。相手や場を意識させ、自己評価、相互評価させながら力を身に付けさせたい。

本単元では、自分にとってあったらいいと思うものについて、友達と対話する。教材紙面に「あったらいいなと思うわけ」「はたらき(できること)」「形や色、大きさ」といった観点が示されているので、聞き手はどんな質問をすればよいか分かる。話し手の「あったらいいな」と思うものが、対話することによってより具体的な形になっていく。

この対話を受けて、発表のためのメモを作らせる。事物の説明をする際は、「わけ」「はたらき」「形や色、大きさ」などの観点を整理することで、話の順序が整うことに気付くことができる。最後の発表

では、ただメモを読むのではなく、「です」「ます」などの丁寧な言い方をするようにして発表させるようにしたい。

「あったらいいな、こんなもの」は児童一人一人が楽しく想像できる内容である。日頃の観察や想像の体験の違いによっては、内容の豊かさにも違いが出てくるだろうが、自分の考えがまだ十分でなかったとしても、友達と尋ね合うことで、内容がより具体的に定まってくることを期待する。

(2) 児童観

本学級の児童は話すことが好きで、休日の出来事や家族のこと、学校でのことなど、積極的に教師や友達に話している。しかし、頭に浮かぶまま話してしまっている児童が多いため、共通の話題に沿って話し合う経験をさせ、聞き手を意識して分かりやすく話す力の育成を目指していく。一方で、大人数の前で話すことに強い苦手意識をもっている児童もいる。ノートやプリントに記述しているものの、自分の答えや考えに自信がもてない様子が見られる。一対一の場面では落ち着いて話すことができていることから、ペアでの話し合いを中心に、人前で話すことへの慣れや自分の考えへの自信をもたせていく必要がある。

聞き方については、友達の話を少しずつ注意して聞くことができるようになってきているが、自分が話すことが先になり、相手の話を最後まで聞けていないと感じる。相手の話を聞くことで、自分の考えが明確になったり、新たな視点を得られたりすることを気付かせたい。

話し合うことについては、自分の考えを伝えることはできるが、聞いたことに対して何と言ったらよいか分からず話が続かなかったり、形式的なやりとりになったりする状況が多い。聞き手の意識を高める必要がある。

(3) 指導観（教師の願いと指導の工夫）

本単元の学習は、キャリア教育で育成すべき力である基礎的・汎用的能力のうち、「人間関係形成・社会形成能力」の育成に関連する。「人間関係形成・社会形成能力」とは、小学校キャリア教育の手引きにおいて

『多様な他者の考えや立場を理解し、相手の意見を聴いて自分の考えを正確に伝えることができるとともに、自分の置かれている状況を受け止め、役割を果たしつつ他者と協力・協働して社会に参画し、今後の社会を積極的に形成することができる力である。』（国立教育研究所）

と記載されている。

本単元では、質問をして、相手の考えを引き出すという能動的な聞く力を育てたい。そのために、「どのような質問をするとよいのか」という質問の観点を全体で共有し、掲示したり、教科書の教材や教師のモデルを使って質問の仕方をイメージさせたりする。

また、話し合うことで、自分の考えが明確になったり、新たな視点が見つかったりすることに気付かせたい。そのために、話し合いで得られたことをメモをさせて視覚化したり、話し合いの振り返りをさせてそのよさを価値付けたりする。自分一人ではなく友達と一緒に考えることの楽しさを味わわせたい。

6 キャリア教育の目標に迫るための手だて

(1) 自分の考えを詳しくするための、ワークシートの工夫

自分が最初に考えた絵や説明の周りに、話し合いのメモができるようなワークシートにした。友達との話し合いを通して、自分の考えが詳しく明確になっていくことが、視覚的にも実感できると考えた。

(2) 相手の話を引き出すための、掲示物の工夫

第3時で「考えをより詳しくするための質問の仕方」を学習している。「道具を考えた理由」「道具の働き」「形や色、大きさ」などについての質問を児童の言葉で書いたものを掲示物で示すことで、どのような質問をすると相手の道具の説明が詳しくなるのか、考えやすくした。

また、相手の話を「受ける」ことを意識すると、よりよい聞き方ができることも学習した。聞き方のポイントとして、うなずき、相槌、表情、「わあ、そうだね。へえ、いいね。」などの言葉も掲示物に示すことで、聞き手の意識を高めるための手だてにもなると考えた。

7 指導計画(全8時間 本時5/8)


次	時間	学習活動	指導上の留意点	評価基準と方法
一	1	①単元名とリード文を読み、学習目標を確認し、学習の見通しをもつ。 ②1年生の学びを振り返る。	①質問によって考えを深めたり、確固たるものにしたりする学習だと意識させる。単元の終わりに「あったらいいなこんなもの発表会」を行うことを伝える。 ②P5を参考に1年生で学んだことを思い出させる。	(態)どのようなことをどのような順序で学習するのか見通しをもち、すすんで発表に取り組もうとしている。
二	2	③「あったらいいな」というものを考えて、絵に描く。 ④道具の効果について短くまとめる。	③「〇〇のときに、△△する道具」という文に当てはまるように考えさせ、道具の働きに焦点を当てさせる。 ④「使う場面」「できること」「わけ」を箇条書きで書かせる。	(思)身近なことから想像を広げ、あったらいいなと思うものを考えている。 ・考えた道具について詳しく考えるために、話を集中して聞き、相手の考えに感想や質問をもっている。 (態)相手に分かるように話そうとしたり、友達の考えにすすんで質問しようとしていたりしている。
	3	⑤道具について詳しく考える話し合いの仕方を確かめる。	⑤付録CDを聞き、質問の仕方や内容を理解させる。	
	4	⑥友達とペアで交流し、質問や交流の内容を全体で共有する。	⑥前時で押さえた観点を確認してから行い、質問の答えはメモを取らせる。	
	5 本時 	⑦前時で学んだことを参考にペアを替えて交流する。	⑦質問によって考えが深まることに気付かせる。	
	6	⑧発表の仕方を確かめ、発表メモを作成する。	⑧ペアでの交流と発表の言い方の違いに気付かせる。	
三	7	⑨グループで発表会を行う。	⑨丁寧な言い方を理解させ、発表や質問に活用させる。	(知)話す相手や場に応じて、普段の言葉と丁寧な言葉を使い分けている。
	8	⑩学習を振り返る。	⑩P89の「ふりかえろう」「たいせつ」を参考に、発表したり質問したりするとき大切なことを振り返らせる。	(思)友達の発表をよく聞き、質問や感想を伝えている。

8 本時(5/8)


(1) ①本時のねらい

質問のよさに気づき、すすんで質問したり、応答したりすることができる。

②キャリア教育のねらい

<p>考えや気持ちを聴く・伝える</p> <p>目指す児童の姿：話を聞いてすすんで伝えよう</p> <p>2 学 年：いろいろな人の話はきこう</p>	
---	---

(2) 本時の展開

	<p>学習活動 ○主な発問 ・予想される児童の反応</p>	<p>・指導上の留意点 ◇評価基準 ★キャリア教育の目標に迫るための手だて</p>
<p>導入</p>	<p>1 質問の仕方、話の聞き方を振り返り、本時のめあてを確認する。</p> <p>○今日はペアを替えて「あったらいいな」と思うものについて話し合います。話し方と聞き方を振り返りましょう。</p> <p>○昨日の話し合いでは、他の質問をしているペアもありました。 「～のときは使えますか？」 「ここには模様はありますか？」 「どんな風に動きますか？」</p> <p>○いろいろな質問をすると、相手の考えはどうなりますか？ ・考えていなかったことに気付く。 ・もっと詳しくなる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center; margin: 10px auto; width: fit-content;"> <p>しつもんをして、友達の考えをくわしくひきだそう。</p> </div>	<p>★掲示物の工夫</p> <p>・これまでの学びを確認として、児童の言葉を短冊状にしたものを提示し、どのような質問をしたらよいか、相手の話を聞くときの態度を確認させる。</p> <p>・質問をすることで相手の考えを詳しくするというねらいを印象づける。</p>
<p>展開</p>	<p>2 二人組になって、話し合いを行う。</p> <p>① ペアで順番に自分の道具のことを伝えます。</p> <p>② 聞く人は、どのような質問をすれば詳しくなるか考え、相手のワークシートに書き込みましょう。</p> <p>③ 順番に質問をし合って、考えをさらに詳しくするための話し合いをしましょう。</p> <p>④ 詳しくなったことをワークシートに書き足しましょう。絵を描き加えてもよいです。</p> <p>⑤ 質問で道具がよりよくなったペア話し合いを見て、質問や感想のよいところを見つけましょう。</p>	<p>◇質問することのよさに気付き、すすんで尋ねたり応答したりしようとしている。</p>  <p>★ワークシートの工夫</p> <p>・友達との話し合いを通して、自分の考えが詳しく明確になっていくことを書き込み、視覚的に実感させる。</p> <p>・質問の着眼点などについてよい例を知らせる。</p>
<p>まとめ</p>	<p>3 振り返り</p> <p>○話し合いを通して、考えがどのように詳しくなりましたか。</p> <p>・もっとこうしたらいいとアドバイスをもらって、新しい道具の働き方を考えることができました。</p> <p>・大ききの説明がなかったので、書き足しました。</p> <p>○次は発表の仕方を知り、発表メモを作りましょう。</p>	<p>・話し合って考えが深まったことを捉えさせる。</p>

9 板書計画

あったらいいなこんなもの　くしつもん名人になろうく

くしつもんをして、友達の考えをくわしくひきだそう。



○くしつもん

どんなかたち？

どのくらいの大きさ？

どんないろ？

どんな名前？

どんなとき？

どうして？

○かんそう・アドバイス

いいところ

もっとこしたらいいよ！

○聞き方

そうだね！

たしかに！

そういうことか！

それいいね！

うなずき

ひょうじょう

◎話し合ってくわしくなったこと

- ・アドバイスをもらって、あたらしいどうぐのはたらき方を考えることができた。
- ・大きさのせつめいをたすことができた。